



見学会でいろんな家を見て、
自分の家として置き換えて考えることが大事



Come Home Story

ご入居後の
お宅訪問
No.019
カムホームストーリー
高知市・Tさん家
竣工:2011年4月
設計担当:福井 美絵



「最初は社長だと気がつかなかった(笑)でも、それが良いんですね」

学生時代にアルバイト先で知り合い、結婚後、家を建ててからも毎日ふたりで出かけているという仲良しTさまご夫妻。愛媛県にご実家がある旦那さまは「家を建てたい」という奥さまの思いを汲み、高知に留まることを決意。奥さまの好きそうな雰囲気だと手にとった記事広告k+を機に見学会へ出かけました。天然木でつくられたナチュラルな造りは、奥さまにとってまさにストライクたくさん見て回ったモデルハウスの印象も一気に吹き飛ばすほどでした。同年代の社長の気取らない感じが親しみやすく、相談しやすかったと話すお二人。その日のうちにもと候補に入れていたというすぐ近くの土地と一緒に見に行きました。「こっこのほうがいいね」という社長が予算オーバーの別の土地をその場で交渉し、すべての条件が満たされたことでTさまの家づくりが始まりました。顔を見合わせ笑顔で「社長のおかげ!」と太鼓判を押すTさまご夫妻です。

「やっぱりキッチンと…大好きな趣味部屋!」

オーダーメイドの家づくりは決めることが多いぶん、あれもいい、これもいいと迷うもの。「こんな感じ」と頭の中のイメージを伝え、設計コーディネーターの福井さんがバランスよく提案したものが「マッチしていた」と奥さま。打合せはスムーズに進んでいったと振り返ります。「3、4人いても全然平気」という広々キッチンは、家族の笑顔と向き合えるよう対面式に。お料理やお菓子づくりが趣味の奥さまは「最初からオープン2台置く決めていた」と背面に十分奥行きのある収納スペースをつりました。大きなお鍋や調理器具も気持ちよく片づく、文句なしのキッチン。愛情いっぱいのお料理が、天然木のオーダーテーブルに彩り良く並びます。キッチン奥に見え隠れするのは、キラキラと揺れるビーズ照明が迎える家事コーナー兼、趣味部屋。奥さまの背丈に合わせたカウンターをつくり、アイロンやお裁縫はここで。ミシンを出したりしまったりせず、思う存分打ち込めるのがうれしいところです。棚にはファンクラブへ入っているという奥さまの大好きなアーティストのコレクションが並ぶ幸せ空間が広がります。

「『自分の家』として考えることが大事」

家を建ててからというもの、今まで興味がなかったという庭づくりにハマっている旦那さま。時間を見つけてはお手入れをし、気が向いた時にまたひとつ種類を増やしてみる。季節ごとに色を変える植物たちに「夢中になれて楽しいですよ」と新たな趣味の発見で充実した日々を送っている様子。お年頃の息子さんもリビングでいっしょに過ごすことが多いというTさまご一家。当時はまだ少なかったというリビング階段は、帰ってきた家族の顔が見えるようにと考えたもの。冷暖房の効きも考えカーテンをつけたところ、冬は隙間から2階の冷気が入り込んでくると言います。あとから見たというタイセイホームの見学会で「あの扉良かったね。うちも扉にしたら良かった」と奥さま。旦那さまは「なにより見学会でいろんな家を見て、自分の家として置き換えて考えることが大事」だと言います。気がつけば雰囲気だけで見ていることがあがちな見学会。せっかく行くのであれば、これから一生住まう家づくりのために有効な時間にしたもの。そんなご家族へ「自分たちの設計図があればそれと見比べて測ってみる。今後買う家具も決めやすいし、実物を見ると自分の好みもだんだん分かってくると思います」とTさまからの言葉をお届けします。